



市議 かけの 掛布まち子

浸水防止対策を

今夏、市内各地は三度にわたり豪雨による浸水被害に見舞われました。うち勝佐町は、長年浸水被害に苦しめられ市総合治水計画の重点地区に指定されながら、効果的な対策がないまま。住民の方々から、耕作放棄地を調整池や遊水池として活用する、簡易で実効性のある被害軽減策が提案されました。ぜひ実現できるよう質

しました。

また、旭有機材工業の雨水・工場排水が占用管を通して浸水被害地域の和田排水路に排出され、被害が増す原因となってきました。豪雨時は工場敷地内などで貯留するよう迫りました。

答弁では、「耕作放棄地の活用は一宮市の事例を聞き取り、メリット・デメリットを調査研



究する。旭有機材工業の排水については、現在では般若用排水路の改修も行われたため、地元と協議し般若用排水路へ排出いただくことを検討する」との回答が得られました。

交通弱者の足の確保を

市は公共交通に関する市民アンケートの分析結果を公表しました。「交通不便地域ではサービス強化への要望はあるが、いこまいCARの認知度、利用度が低く、今後の税金投入を抑制すべきとの意見が多かった」として、公共交通のPRと利用促進を優先すると結論、いこまいCARの迎車料金110円を自己負担にする方針です。

かけの議員は、「アンケートの狙いが経費抑制へ誘導することになり当初の目的と違うのではないか。第2段階の事業を開始しないまま、いこまいCARの利用抑制先行では、増税負担増のなか高齢者の足を奪うことになる」と指摘。詳しいアンケート分析を行い、住民の意見を聞く懇談会を開くべきと質しました。

● 他に、新ごみ処理施設についても質問しました。

中小企業振興条例の制定を

これまでの経済・産業政策は、「大企業が成長すれば日本経済がよくなり、いずれ中小企業もよくなる」というかけ声で行われてきました。

しかし、大企業は多国籍化の道を突き進み国内での生産活動を減少させ、中小企業の活動の場を奪ってきました。一方で働く人の賃金がさがり続け、それが内需の冷え込みに拍車をかけ、地域の経済、とりわけ中小企業、自営業者に深刻な影響を与えています。

そうした事態を打開していくために、中小業者が主人公となる「中小企業振興条例」が制定され地域の活性化につなげる努力が始まっています。それは、資金の地域内循環などを通じて、雇用や仕事、所得を生み出し、地域経済の再生に結びつけようということです。

現在、120を越える地方自治体で「振興条例」が制定されており、中小企業振興に大きな力を発揮しています。昨年10月愛知県としても「振興条例」が制定されました。市もこうした条例を制定してはと要求しました。「県内の状況を調査研究していく」との答弁



でした。

ガラス飛散防止対策を



市議 東 よしき

8月から9月初旬にかけて竜巻が各地を襲いました。埼玉で被害を受けた中学校の先生方が「職員室内に飛び散るガラスの破片から逃れるために壁に張り付いて身を隠した」と体験を語っています。

これまでも、防災対策の一環として「公共施設のガラス飛散防止対策」を要求してきました。現時点で、市役所本庁舎1階西フロアの光を取り入れる窓に飛散防止フィルムが施工されています。また保育園では、3歳未満児、乳幼児の保育室などを中心に対応されています。あらためて今後も進めていくよう要求しました。「保育園については、避難の通路となる廊下に面した窓ガラスや、保育室の状況などを考慮しながら、今年度対応する計画。学校などの飛散防止フィルムの設置については、非構造部材（天井、窓ガラスなど）対策を含め防災対策全体の優先順位を定めて進めていく」との答弁でした。

● 他に、住宅リフォーム助成制度の継続、国民健康保険税の資産割の廃止について質問しました。



市議 森 ケイ子

漏水認定の手続きを簡素に

「漏水が発見され、修繕を行った後に、漏水認定を申請しようとする、業者に手数料を払わなければならない、戻ってくる水道料金よりも高くなってしまい申請を取りやめた。おかしくないか。」との問い合わせがありました。調べてみると申請するのに4枚も書類が必要で、指定工事店の手間もかかることがわかりました。他市町では、申請書1枚で済んでいるところもあり簡素化できないか、と質しました。「近隣市町の状況も良く調査し検討する」との答弁でした。

流出抑制の浸水対策を

今年も7月から集中豪雨に見舞われ、大きな被害が出ました。

道路の交差点や歩道に、雨水浸透ますや貯留槽を設置すること、耕作放棄地などを借り上げ遊水池をつくるなどして雨水が側溝や用水に流出することを極力抑制する対策を精力的に推進すること。またモデルとして江南団地前の村久野排水路へ流入する雨水を少なくするために、交差点に道路浸透ますを設置することを提案。「村久野排水への流出抑制策として、浸透ますの設置を検討していく」との答弁でした。

インフルエンザ予防接種について

子どものインフルエンザの予防接種も高齢者のように助成することを求めましたが、「今後国の動向を見ながら対処していく」との答弁でした。

● 他に、新ごみ処理施設について当局の姿勢、地域振興策などについて質問しました。

